

CO-CONNECT

余白の中庭を共有する住まい / プライバシー / 全室に南の陽を取り込む

- GOOD DESIGN AWARDS 2016
- 住まいの環境デザイン・アワード2017
- 新建築『住宅特集』(2018年5月号)掲載

主要用途 : 賃貸併用住宅
構造 : 木造在来軸組構法
階数 : 地上2階
建築面積 : 116.77㎡
延床面積 : 219.67㎡



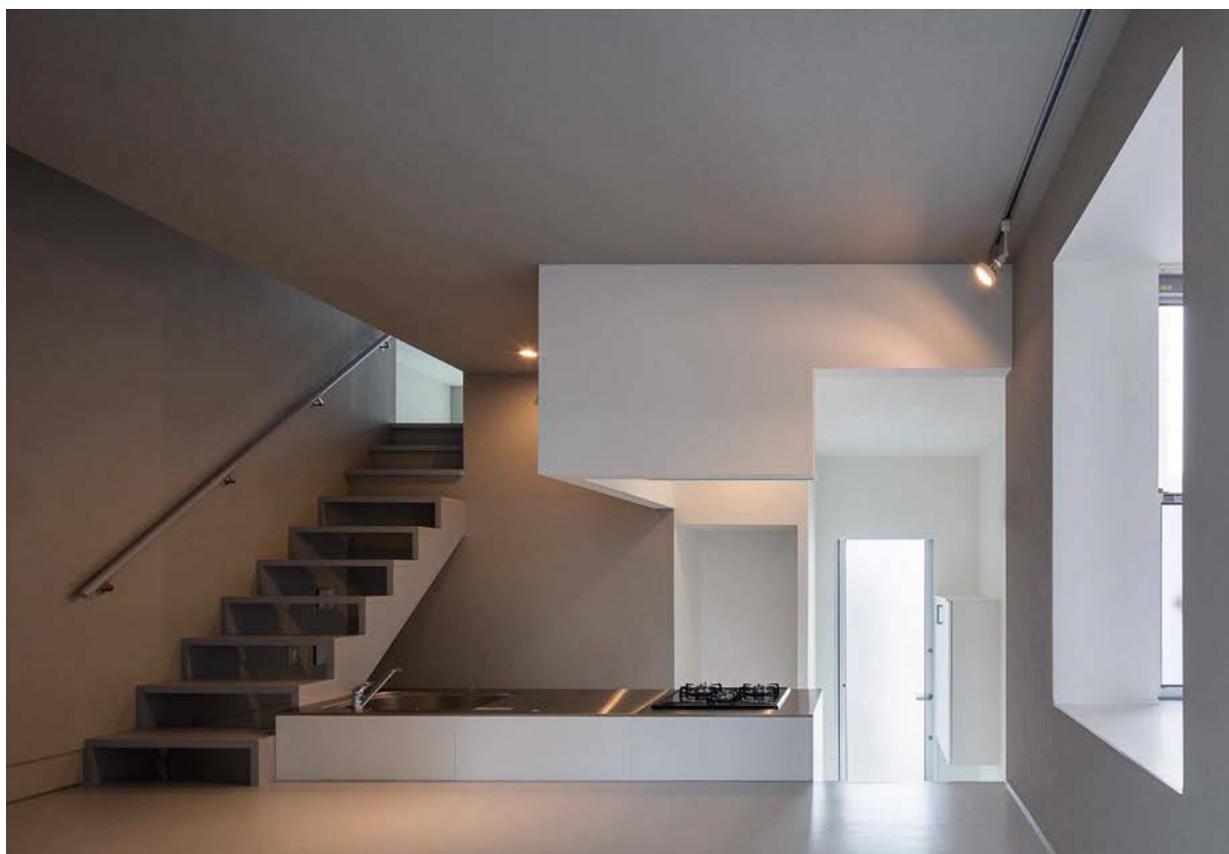
住宅街にたつ、オーナー住宅と2つの賃貸住宅の計画。

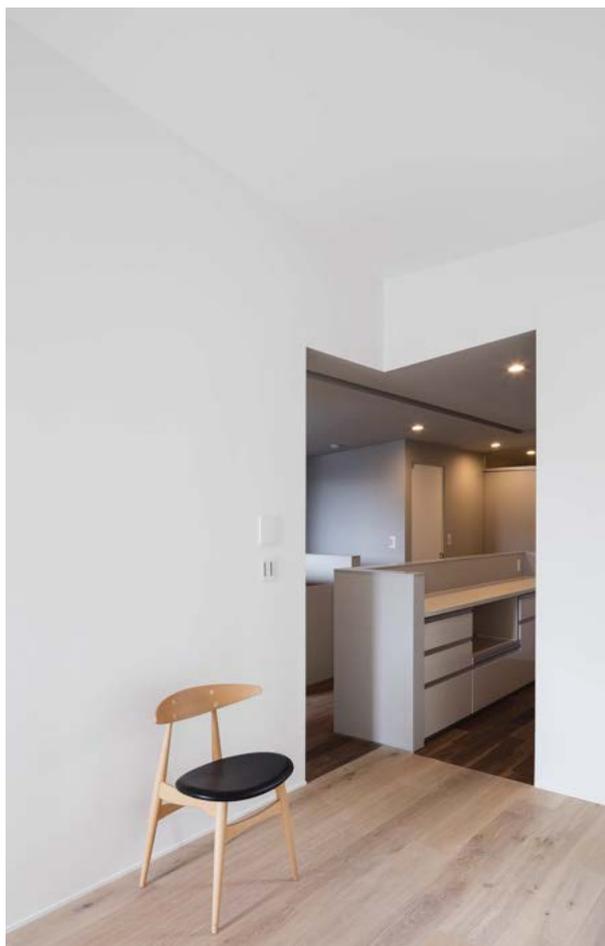
一般的な共同住宅では、壁を挟んで画一的な住戸が連続するだけで、隣人とのプライバシーの確保も難しく、良好な関係は保ちにくい。

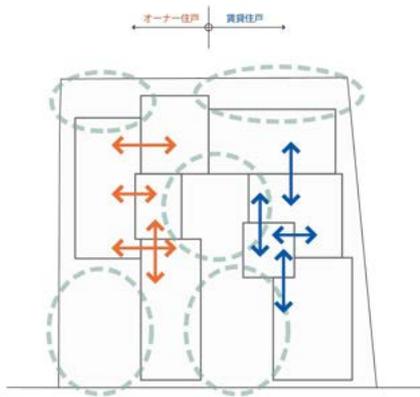
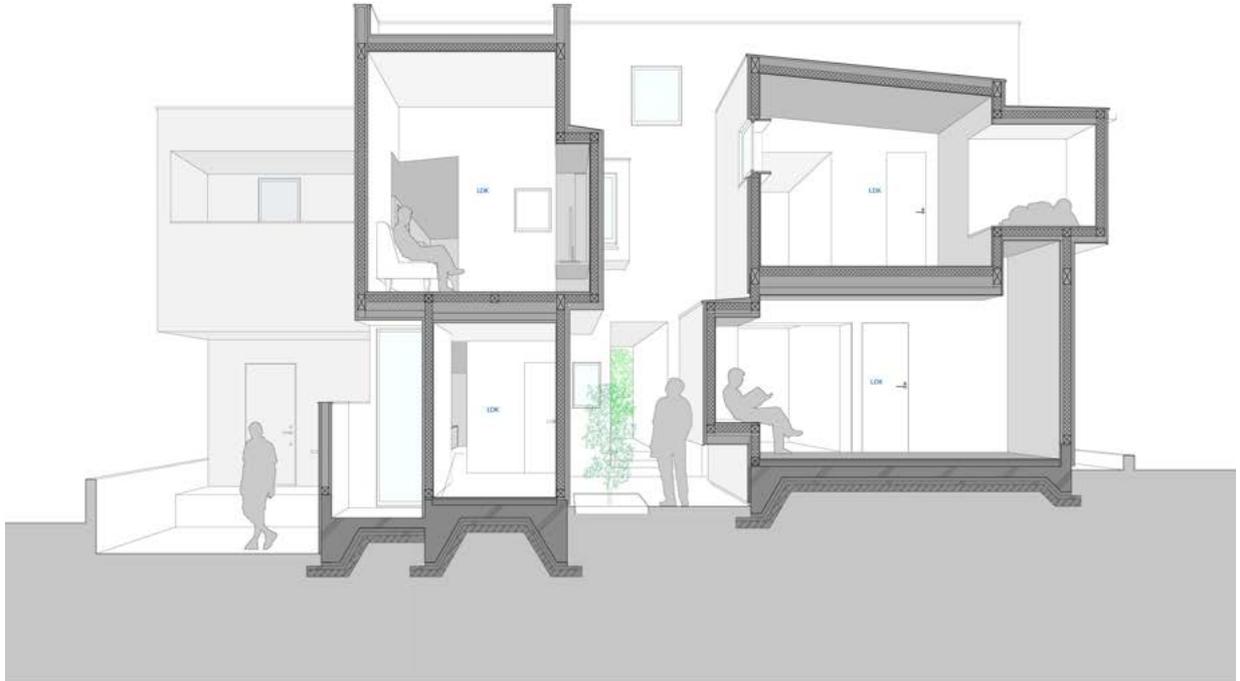
今回の計画では1つの敷地に、永住するオーナー住宅と、住み手が特定されない賃貸住宅をひと棟に繋ぎつつ、“余白の中庭”を設けることで、程よい距離を保ち、各々が快適に生活できる共同住宅を目指した。

南に面した敷地に、向かって西側にオーナー住宅、東側に2つの世帯の賃貸住宅が、“余白の中庭”を介して分けられて、奥でつながり1棟になっている。近い将来の相続などにそなえて、敷地、建物を分割可能とした計画でもある。さらに、ベンチ、カウンターなどの出窓状の機能をもった要素を諸室に挿入することで、“余白の中庭”を介して、全ての部屋に南からの光を導き、住環境を整え、その開口の高さと向きをずらすことで、住人の視線は交わることなく、完全にプライバシーを確保した。敷地内にあった高低差を活かして、2つの賃貸住戸を立体的に交差させることで、それぞれに1階から直接住まいにアプローチできる玄関と、直接南面する居室を設けた。

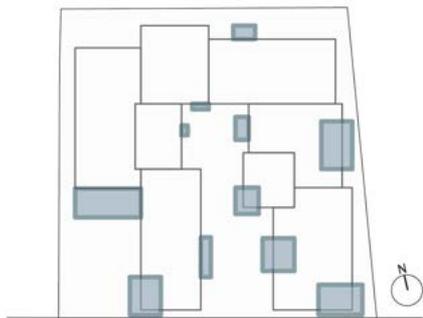
街から敷地、住戸から諸室、そして部位的な要素へ、解像度が変化するように、構成されるボリュームが徐々に小さなスケールへと変化する連なることで、住まい手を街から住空間へ自然に導いていく。



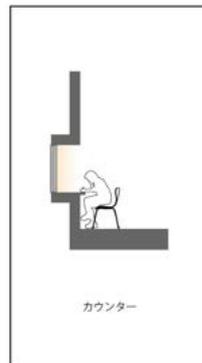
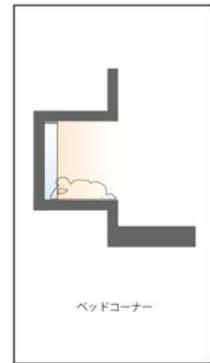
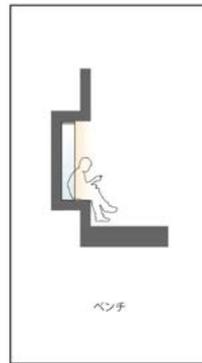




主居室をボックス状に形成し、繋ぎ合わせて中庭を設ける。
箱の連なりの中を横断しながら生活する場を構成する。



連なる箱に小さなスケールの要素機能を付加。
限られたスペースに多様な生活シーンを与え、備が深く、広がりがある空間を生み出す。



小さなスケールの要素機能
出窓、ベンチ、カウンター、小さな部屋などの機能をもちつつ、光を室内に取り込む。